



毛利 元徳(もうり もとのり)

天保10年(1839)~明治29年(1896)



人物紹介

〈諱〉明敬・広封・定広 〈字〉世敏 〈通称〉長門守
 〈雅号〉静斎・萩の舎・波支曾能・躑躅園 他
 〈幼名〉騷尉 〈諡〉忠愛

最後の萩藩主。山口藩知事。天保10年(1839)9月に徳山藩主毛利広鎮の十男として生まれる。嘉永4年(1851)11月、13代萩藩主毛利敬親の養子となり、名を明敬と改名、安政元年(1854)2月に世子となり広封に改名、同年3月に将軍徳川家定に謁見し、一字拝領して定広に改名。元治元年(1864)の禁門の変により官位剥奪の処分を受け、名を広封に戻し、謹慎となる。

慶応3年(1867)10月に討幕の密勅をうけ、同年12月に王政復古により官位復旧、明治元年(1868)2月に上洛し3月に議定となる。明治2年(1869)6月に従三位参議となり、家督を相続し、山口藩知事となる。

明治3年(1870)に名を元徳と改名、同4年(1871)6月東京に移住、7月の廃藩置県により藩知事を辞任。

明治10年(1877)5月に第十五国立銀行頭取、同11年(1878)2月に同取締役となる。同24年(1891)辞任。

明治17年(1884)7月に公爵、同23年(1890)10月に貴族院議員となる。明治29年(1896)12月、東京高輪邸にて死去。58歳没。



資料紹介

県立図書館所蔵の毛利元徳に関する本



伝記 ※ [] 内は県立図書館の請求記号

- 『忠愛公略傳』公爵毛利家編輯所,1906 [Y289/MO45]
毛利元徳の略伝。元徳と長州藩の動向を年月日順に列挙したもの。現代文ではないため、やや読みにくい。かつて山口市亀山公園にあった元徳の銅像の絵あり。



史料

- 『もりのしげり 増補訂正』時山弥八 著,マツノ書店,2015 [Y215/P 5]
毛利家の歴史に関する総合事典。大正5年(1916に)『稿本もりのしげり』として刊行され、昭和7年(1932)に増補訂正版として刊行されたものの復刻版。元徳ほか、歴代毛利家当主の略歴、毛利家系図、歴代略年表、敬親元徳両公参府帰国其他発着表、毛利氏史要年表等あり。

- ・『両公伝史料仮目録』 山口県文書館,1984 [Y289/MO45]
毛利敬親・元徳両公を顕彰する伝記編纂のために集められた史料と、伝記原稿の目録。伝記は出版されなかったが、史料と原稿は山口県文書館が所蔵しており、閲覧できる。
- ・『史籍雑纂 第四』 國書刊行會 編輯,國書刊行會,1912 [R210.08/E 1]
p92-204『世子奉勅東下記』収録。兼重讓造（慎一）著。元徳が朝旨を奉じて関東に下向し、公武間周旋に従事した顛末を記したもの。文久2年（1862）5月13日～3年8月12日まで記載。兼重は当時藩の要職にあり、元徳に陪従していた。
- ・『激動の幕末長州藩主 毛利敬親 明治150年記念特別展』
山田稔 編集,河野通孝 編集,網野ゆかり 編集,
ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会,2018 [Y289/Mo45]
平成30年（2018）に山口県立美術館で開催された明治150年記念特別展「激動の幕末長州藩主 毛利敬親」の図録。敬親ゆかりの人物として元徳関連の資料も紹介されている。写真・資料解説・毛利氏略系図あり。



歌集

- ・『芳宜園集 上下』
毛利元徳 著,井関美清 編,佐々木 古信 編,吉川半七,1897[Y911.1/C 7]
元徳の没後に遺された2万首あまりの歌から選んで編まれた歌集。



その他資料

- ・『三井銀行八十年史』
三井銀行八十年史編纂委員会 編集, 三井銀行,1957 [R335.48/I 7]
三井銀行の創立80年を記念し刊行された。三井銀行と合併した十五銀行の小史を別編として掲載。元徳が頭取となった第十五銀行についてはp537-560に記載。
- ・『歴史読本 2015年3月号 長州VS徳川幕府 維新の激闘と倒幕の真相』
KADOKAWA,2015 [R210.05/I 6]
p136-141に「特集論考 京都における長州の進出をリードした藩主世子毛利元徳」（道迫真吾著）を収録。長州藩の外交を担った元徳の役割を論じた記事。

山口県立図書館は明治維新資料の収集に努めています

山口県立山口図書館 総合サービスグループ
TEL：083-924-2114（調査・相談）
FAX：083-932-2817
ホームページ：http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/

このほかにも関連資料がありますので、詳しくはお問い合わせください。

作成日：令和2（2020）年3月31日